

<発表資料>

2023年4月24日 23042

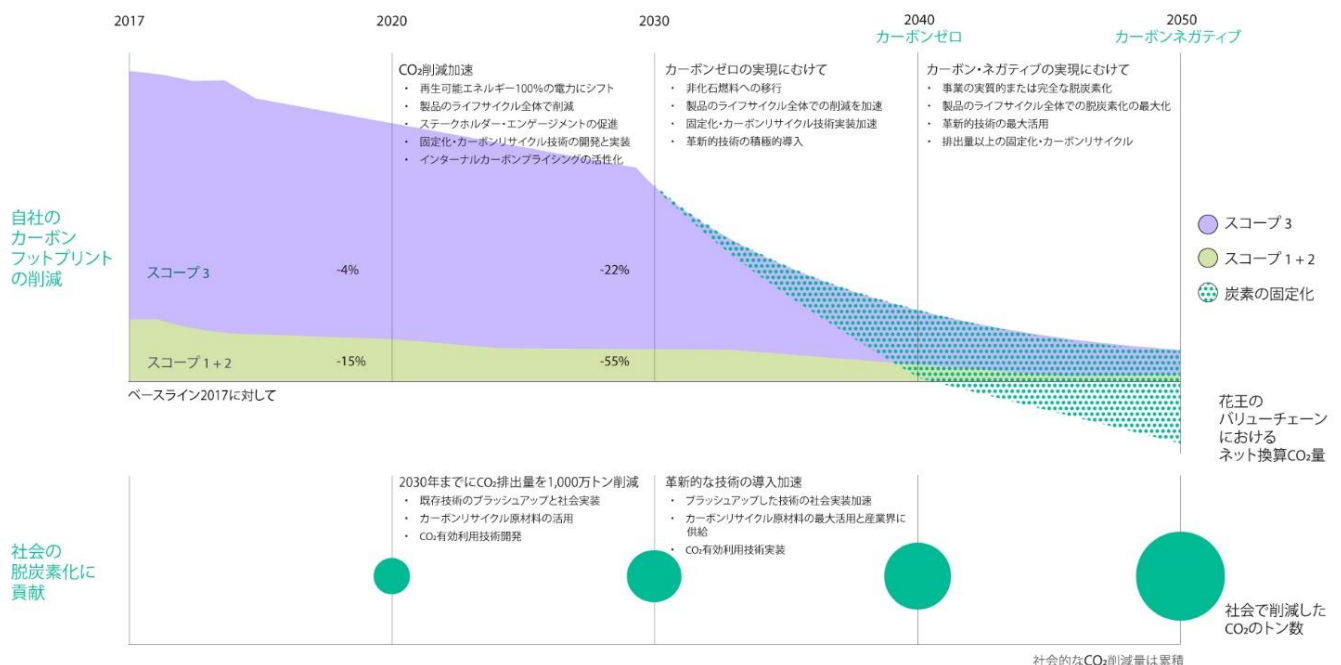
2040年カーボンゼロ、2050年カーボンネガティブ実現への活動を加速 社内炭素価格のさらなる活用、 スコープ3における中長期視点での新たな取り組みを推進

花王株式会社(社長・長谷部佳宏)は、脱炭素社会の実現に向け、CO₂の「リデュースイノベーション」と「リサイクルイノベーション」に取り組むことで、事業活動に伴い排出されるCO₂を2040年までにゼロ、2050年までにネガティブをめざしています。花王は2019年4月にESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」(キレイライフスタイルプラン)を策定し、19の重点取り組みテーマを設定。本取り組みは「脱炭素」に貢献する活動です。2022年の主な実績として、2021年に設定価格を引き上げた社内炭素価格の活用、「原材料調達」「使用」などCO₂排出量が多いスコープ3^{*1}における、CO₂削減に貢献する製品の展開と中長期視点での新たな取り組み等を推進しています。2022年の進捗を報告します。

*1 企業・組織以外が排出する温室効果ガス量

2021年5月 ニュースリリース

[新たな「脱炭素」目標を策定 2040年カーボンゼロ、2050年カーボンネガティブをめざす](#)



花王の「脱炭素」目標

CO₂リデュースイノベーション / 2040年カーボンゼロに向けた目標と2022年実績

2022年は引き続き、コーポレートPPA^{*2}の活用、自家消費用太陽光発電設備の導入、非化石証書^{*3}等により、電力の再生エネルギー化を進めました。また、2021年に従来の3,500円/トン-CO₂から168ドル^{*4}/トン-CO₂に設定価格を引き上げた社内炭素価格制度を活用し、2022年には豊橋工場の温水ヒートポンプ導入(2023年5月完成予定)、鹿島工場の太陽光発電導入(2024年1月完成予定)を採択しています。

*2 需要家が発電事業者から、再生可能エネルギーを直接長期間購入するスキーム

*3 非化石電源により発電された電気が持つ「非化石電源由来であることの価値」を証書の形で「見える化」したもので、小売電気業者が、需要家に販売する電気に活用することでCO₂排出量の削減が認められている

*4 2023年2月より基準通貨を日本円から米ドルに変更

● スコープ1+2^{*5} CO₂ 排出量(絶対量)を2030年までに55%削減(基準年2017年)

(国際的なイニシアチブであるSBTイニシアチブ<SBTi>から『1.5°C目標』の認証を取得)

2022年実績:26% (2021年:20%)

*5 企業・組織が自ら排出する温室効果ガス量

● 使用電力における再生可能エネルギー化比率を2030年までに100%

(事業の使用電力を100%再生可能エネルギーで賄うことをめざす国際的なイニシアチブ『RE100』に加盟)

2022年実績:49% (2021年:40%)

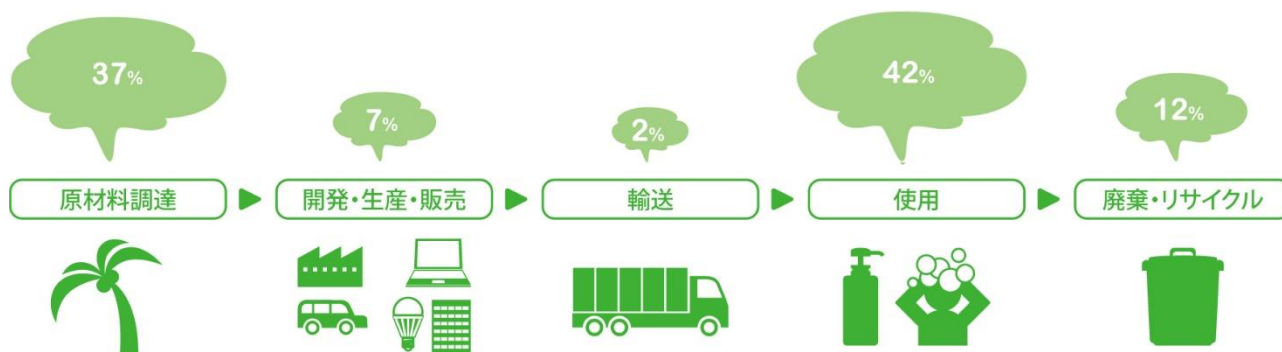
日本・海外の使用電力の再生可能エネルギー化比率	2022年実績:日本58%、海外38% (2021年 日本51%、海外27%)
自家消費用太陽光発電設備の導入拠点(2022年末時点)	2022年実績:21拠点 (2021年 17拠点)

● ライフサイクル^{*6} CO₂ 排出量(絶対量)を2030年までに22%削減(基準年2017年)

(国際的なイニシアチブであるSBTイニシアチブ<SBTi>から『1.5°C目標』の認証を取得)

2022年実績:6% (2021年:4%)

*6 原材料調達・製造・輸送・使用・廃棄で排出するCO₂量(スコープ1、スコープ2、スコープ3の一部)



花王のライフサイクル各段階で排出されるCO₂の割合

ライフサイクル各段階で排出されるCO₂の割合は、「原材料調達」と「使用」が大きい点の特徴です。「原材料調達」では原材料削減や再生プラスチックの利用、「使用」では水の使用によるCO₂

の排出を抑える節水製品の展開、「廃棄・リサイクル」では植物由来などの天然原料の利用、包装容器のプラスチック使用量削減等を引き続き推進しています。

特に CO₂ 排出量が多い「原材料調達」「使用」段階での取り組みを進めています。2022 年には「原材料調達」において、日本における PET 素材の容器の 69%に、再生 PET を使用しました。また、「使用」では、すすぎが 1 回ですむ衣料用濃縮液体洗剤「アタック ZERO(ゼロ)」、すすぎ時にすばやく泡切れする食器用洗剤「キュキュット」、手洗いをすることで水使用量を減らすことができる全身洗浄料「ビオレ u ザ ボディ 泡タイプ」など、節水によって CO₂ 削減を実現する製品を多く展開しています。

また、中長期視点での CO₂ 削減に向けても、新たな取り組みをスタートしています。「原材料調達」においては、パーム油の代替原料を市場に供給することを目的として米国に設立されるベンチャー企業へ、サステナブル素材のリーディングカンパニーである Genomatica および Unilever と共に、創立メンバーとして参画しました。また、「廃棄・リサイクル」では、キャッサバ残渣をバイオマスとして利活用する製造モデルの調査を国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の委託事業として開始しています。

2022 年 8 月 ニュースリリース

[キャッサバ残渣をバイオマスとして利活用する製造モデルの調査をNEDO委託事業として開始](#)

2022 年 9 月 ニュースリリース

[花王が創立メンバーとして1億2千万米ドル超のベンチャー企業へ参画Genomaticaと共に、パーム油代替原料の供給をめざす](#)

● 花王の製品・サービスを利用することで社会全体で CO₂ を削減する量 2030 年までに 1,000 万トン

2022 年実績:4,230 千トン(2021 年:4,564 千トン)

社会のサステナビリティに貢献する製品・サービスや技術の開発を、コンシューマープロダクツ事業、ケミカル事業において進めています。新たに提供する製品・サービスと、従来の製品・サービスの、製品ライフサイクルにおける CO₂ 排出量を比べて削減された量(削減貢献量)を、指標として設定しています。コンシューマープロダクツ事業では、プラスチック使用量を削減する包装容器の採用や、節水につながる製品の提供などにより 1,936 千トン、ケミカル事業ではワイヤーハーネス用可塑剤や低燃費タイヤ用薬剤などにより 2,294 千トン削減しており、社会の脱炭素化に貢献しています。

CO₂リサイクルイノベーション / 2050 年カーボンネガティブに向けた目標と 2022 年の実績

引き続き、2030 年の社会実装をめざし、CO₂を原料とする技術開発に取り組んでいます。

花王グループは、2021 年から、「未来のいのちを守る～Sustainability as the only path」をビジョンに掲げた中期経営計画「K25」を推進しています。経営に ESG の視点を導入し、事業の発展と、消費者や社会へのよりよい製品・サービスの提供をめざし、パーパスである「豊かな共生世界の実現」に向けて取り組んでまいります。

関連情報

- [花王、ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」を発表](#)
- [未来に向けた「花王グループの新たな挑戦」 ESG 経営に大きく舵を切る](#)
- [花王のサステナビリティ](#)